

ORIENTEERING JAPAN

O JAPAN

シンキングスポーツ・オリエンテーリング

'92/10

1992年〔平成4年〕10月10日発行

(毎月1回10日発行)

第9巻第10号 通巻第111号

昭和63年6月24日第三種郵便物認可



植物性

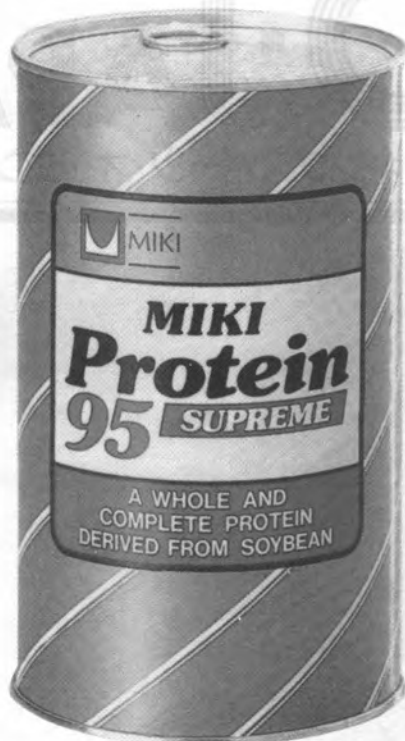
- 持久力・体力……健康の維持
- ノンコレステロールです

プロテイン95

- 皮膚・毛・目・爪・筋肉組織・分泌腺・血・
- ホルモン等すべてプロテインで出来ている

レシチン

- 脳神経系統内分泌腺及び心筋成分
- コレステロール分解



● お問合わせはO-JAPAN編集部まで

オリエンターリング地図印刷

社内報 団体・サークルの機関紙 記念誌
PR誌 学校新聞 句集 歌集 詩集

あしび印刷 株式会社

〒220 横浜市西区西戸部町3-298
神奈川県教育会館前
☎045-231-5970 (代)

ORIENTEERING JAPAN

○ JAPAN もくじ

92/10月号・No.111

- “はじめよう、できることから！”
田口 肇4
- 「こどものための
オリエンテーリング」5-6
- 第7回
誌上フォトオリエンテーリング7-9
- =イベント・レポート=
「ショートO大会」
「土曜日休校日・
オリエンテーリング教室」
「第47回大田市O大会」
「岸和田・神於山O大会」
「佐賀県民OL大会 兼
全国ふれあいOL大会」
出田 裕子, 稲垣 智彦
堀江 康博, 財間 定義
福田 良雄10-12
- O-FORUM
“オリエンテーリングの
普及ってなに？”
尾川 正洋12
- “「行」と「様」
あなたはどちら？”13
- パーマネントコースりぼ〜と
木佐木輝雄, 大高 竜亮
富田 徹14-15
- “情報あれこれ” “編集部より”16

□

[今月の表紙] [今月の地図=折り込み]

9月26日(土)宮城県奥松島
で開かれた、平成4年度第4回
全国レクリエーション研究大会
仙台大会・奥松島探訪オリエン
テーリング大会に使われた1ポ
ストから湾を撮影。そしてその
使用地図。

□

ストリーマー

稲穂の秋に想う

実りの秋、東北の米どころ“ササニシキ”の宮城県。風光明媚な松島から更に車を走らせて、初めて“奥松島”まで足を伸ばした。やや風はあったものの、すばらしい天気で、まだ9月とはいえ東北地方の秋は早く、まさに爽やかという形容詞がびたりとする一日であった。フォトOの撮影に出る前、仙台OLCの菅原さん、三上さんに薦められたところは、「陸の松島」と言われるとおり、黄金色の一面の稲穂の海に岩はだをむき出した尾根が点在するという景観であった。そして、ちょうど稲の刈取が始まっている時期らしく、あちこちでお百姓さんたちがた働きだしていた。あえて“お百姓さん”という言葉を使ったのは、山合いの田のせいかけ、機械を使っているところをあまり見かけず、鎌で、あの懐かしい“稲刈り”をしている人たちを見かけたからである。その姿からは、田植えからここまでの、丹精込めた米づくりが多分に想像された。田の端の小道も心よく通してくれ、断りの挨拶をすると「ご苦労さん」という言葉までいただく。あぜ道まで入り込んで、あちこち角度を変えての撮影にも目もくれず手を休めない。“一生懸命”という言葉もまた使いたくなる。

戦中戦後の食糧難の時代が学童期にあたり、粟やひえ、とうもろこし、さつまいも、果ては芋づるや野の草で育った者にとって、その頃夢にまで見た、銀シャリ、つまり白米の飯。少なくとも普通の人よりタフだと言われる私の元気の素である。外国へ出かける際もレトルトパックを必ず持参する。昔、北の洋というお相撲さんが、巡業先で大きな体で弁当のふたの裏についたご飯つぶをひとつひとつ取って食べているところに奥さんが惹かれたという話は、子ども達が米を粗末にした時などに持ち出すことがある。幼い頃読んだ本で、水戸黄門が何気なく米俵に腰かけて、それこそお百姓さんから叱られる話は、印象深く、記憶に残っている。心を込めて作られた日本の米は大事にしたい。そこへ、“冷凍寿司”なるものが入ってきた。日本の米は“価格”で太刀打ちできずに、また生産量は減るのだろうか。あの“廃田”がまた増えていくのだろうか。残念なことである。戦争と食糧難を知っている者としては、例え生活程度が5%や10%下がろうとも、車より米の自給を大切にしたい気持ちがある。田畑や森がつぶれ工場が建つよりも、この美しい日本の風景をいつまでも残したい。

流人

はじめよう、できることから！

10月8日の神奈川新聞社会面に右下のような記事が掲載された。新聞記事からは「オリエンテーリング」に関しての詳細な状況はつかめないの
で、このことについての意見は差し控えるが、今後のための提言を箇条書きにしてみた。特に中央組織・都道府県組織・公認指導員のみなさまにご検討いただければ幸いである。

田 口 肇

■公認指導員養成講習会

- ・真の指導者の養成。
- ・特に全国のOL過疎地域に、先ず指導員を作る。
- ・講習会カリキュラムの再検討。

■公認指導員研修会

- ・公認指導員の研修。
- ・公認指導員間の情報交換。
- ・全国公認指導員の名簿作成。

■公認大会

- ・クラス分けの再検討。
- ・公認大会コントローラー制度の確立。
(年少・高齢クラスの距離短縮=ウィナーズ・タイムを予測し距離を決める)
- ・コントローラー・マニュアルの作成。

■全日本/東・西日本大会

- ・全日本大会のエリート・クラスを真のナショナルチャンピオン・クラスとする。
- ・全日本大会を3日間大会とする。
(個人2日間/リレー1日=都道府県対抗=年少・高齢者クラスなし。個人の年少・高齢者クラスの距離短縮)
- ・2日間のうち最終日を、“全日本オリエンテーリングの日”とする。
- ・全日本オリエンテーリングの日における各ブロック大会=または各都道府県大会の同時開催。
(多種のメディアの利用、年少・高齢者の地元への参加および3日間大会運営労力の軽減)

わが国にオリエンテーリングが導入されて以来20数年、たとえ地方紙とはいえ、オリエンテーリングでの事故がこのようなかたちで報じられたのは、初めてではないだろうか(地域への迷惑・PCでの迷い込みなどオリエンティア側の自己責任によるものの記事はあったが)。一指導者としての責任を感じながら、とりあえず本号ではアイテムのみ掲げ、来月号で私の考えを詳述してみたい。
みなさまからのご意見も歓迎します。

川崎市の
「自然教室」

児童死亡事故再調査へ

「報告は不備」市会追及で

川崎市教委が八ヶ岳で小学生を対象に行っている「小学校自然教室」で昨夏、五年生の男子児童が死亡する事故があったが、同市教委が作成した事故報告書に不備があることが七日、明らかなった。この日の市会一般質問で、猪股英恵議員(神奈川ネット)が質問した。匠君は昨年七月三日から五日にかけ、川崎市八ヶ岳少年自然の家(長野県富士見町)を拠点に行われた小学校自然教室に、同校の五年生百八十五人とともに参加した。日程二日目の四日、距離五・六キロのオリエンテーリングに参加し、五時間かけて歩き通したが、翌朝不調を訴え、救急車で運ばれた富士見高原病院で急性心不全で亡くなった。同市教委によくと、匠君は心臓に持病があつて通院しており通常、体育の授業は見学していた。自然教室に参加に際しては、オリエンテーリングは一般コースの半分距離だけを歩くことにし疲労を訴えた時点で中止することになっていた。猪股議員は七日、この事故を取り上げ「匠君が歩行中に死亡した事故については、準備段階を含め実施段階での詳細な経過を報告すべ」と答弁した。

途中で「疲れた」「気分が悪い」と言っているのを引率教師が聞いているのに、市教委が同校長から受けた説明を基に作成した事故報告書には、決して歩いているほかにも食い違いが多い。真相はどうなのかとたじた。

10月8日付「神奈川新聞」より

ORIENTEERING FOR CHILDREN

Guidelines 【IV】

By T. Renfrew, C. McNeil & P. Palmer [1990]

©Produced by Jordanhill College of Education

Translated by Hajime Taguchi

こどものためのオリエンテーリング ＝ガイドライン＝

11～14歳 のレベル

この年代は技術進歩の重要な段階となる。一般的には、少年たちは素直で意欲的である。彼らは同年の者たちとの競技を好む。無関心に陥りやすい彼らには懇切的なグループが重要になる。この年頃の初期の段階では、スポーツを始めようとしてその技術習得に飢えているかに見える少年たちに機会を与え、正しい教え方によっては素晴らしい速い進歩を促せるのである。少女たちは少年たちより、時としてより慎重であり、同じ運動課題を出して無能であるとの考えを持たせてはならない。

成果は少年たちの動機付けを萎ませないことであり、意気込んで取り組んでくるところまで細かく段階を追った一連の「楽しい」プログラムが鍵となる。コースプランナーはこの年代グループのニーズに対して極めて敏感で、コースがこどもたちの要求にマッチさせ、各人が皆進歩の機会を持ち好結果を経験させるよう配慮すべきである。

カラーコード方式に沿った進行がこの年代には適するが、それは慎重さと進展をミックスした幅広いバリエーションに対処できるからである。

【技術的進展】

必要なことは、練習し得る技術を導入したり教えたりして、こどもたちが応用的な状況のなかで技術をマスターしているかどうかを見極めることである。

—ハンドレールの確認の能力

(訳注：自分の位置を常に確認できるような明確な線状特徴物。わが国では、やや意味をひろげて「安全回路」という言われ方があるが、回路

ではなく、コースに沿ってあることが望ましく、近くに置かれたコントロールのためにここから逸れても、すぐに戻れるようにしておく。スケート場でいえば「手すり」であり、オリエンテーリングの初心者も同様手すり＝ハンドレール＝磨きである)

- アタック・ポイントを作り使うこと
- コンパスの多彩な使用法での習熟
- 地図とコンパスを併せた使用
- 等高線の理解
- 適当なコース上でのプランナーによって出された問題の解決(レベル4以上)

小グループ0、競走プログラム、小規模な0競技会などを、クラブや学校で行なうことは適切である。オリエンテーリングはランニング・スポーツであるが、形式的な体力トレーニングは必要ない。こどもたちはオリエンテーリング・プログラムの一部分として十分に走るようになるであろう。それは奨励されるべきことだが、他のスポーツへの参加を要求し、0オースパシャルリストになることなど考えもしないだろう。

【競技会】

正しい教育と個人的向上の結果、こどもたちには、年代別クラス分け競技会への要求があるだろうが、それはもちろんハイレベルな国際的な代表を決めるというのではない。学校やクラブのレベルであっても、この非常に若い未熟な競技者たちにとって大変なストレスのかかる責任重大なチーム競技会は勿論、リレー競技会でさえ慎重さととり扱われるべきである。

競技中の行動はしばしば突飛になることがあり、代表選考の基準は一貫して注

意深く考慮されるべきである。ひとつの大きな大会や「選考レース」での好結果があっても、以後の成功への頼りになる指針になるとは限らないし、毎週毎週の行動の変化の常態のものを信ずるべきである。地域レベルの選手代表というかたちをとるのは、13歳以上のクラスのみにするのが適当である。チャレンジ精神や個人的な上達や成功の喜びの動作を生むことができる表彰の計画は、不適当なランキング・リストを通してよりむしろ彼ら自身の評価となるのである。

15歳以上 のレベル

次のようなことに対処しなければならぬ若い人たちにとって、青年期(訳注：男は14-25歳、女は12-21歳)は難しい。

- バランスに影響を及ぼす身体的変化
- 学業のプレッシャー、特に強要的な受験システム
- 親の期待
- 特に異性と、人間関係
- しばしば権威との衝突に現れる彼ら自身の個人的独自性の固まり

体格において性による大きな違いが、この青年期に表われ、このことがオリエンテーリング技術の基礎的な能力に影響するが、何らかの新しい技術を学ぶ場合にそのスピードを左右する。青年期においては生理学上の変化が表われ、安静時血圧、心拍数、ヘモグロビン(訳注：色素=赤血球中にある赤い色素)濃度、肺活量などいろいろなものでの、性的違いの原因となるのである。

若者たちの体力が増強し技術が向上すると、刺激や挑戦を求める時期がある。オリエンテーリングは個人的な向上や自身の考え、そして仲間相互の影響という機会を提供することによって、このニーズを満たすことができる。この年代の若いオリエンティアたちは、例えばコースプランニング、トレーニングや競技レベルといったような問題を論じることを好む。彼らはまた、仲間への面目を失うということに非常に敏感である。したがって、競技会への導入の段階では注意が必要である。

【技術の進歩】

レベル6 (本誌 92/2, 13ページ 参照) までの全ての技術を完全に修めているはずである。体力的トレーニングは慎重に見守り、ハードな長距離走によって引き起こされる身体への負担のかけ過ぎは成育期では避けなければならないなどの注意は必要である。

しかし、相当量の技術練習は可能であり望ましい。コースは技術的なチャレンジに富み興味に満たされたものであることが重要である。

【競技会】

この年代でこのスポーツに入ってきた者には、特別の配慮が与えられるべきである。彼らはカラーコード式で始め、同レベルまたは同じぐらいのカラーコード・コースに自信を持って対処でき得るようになってから、同年代クラスに進むべきである。迷ってしまうことは、若者にばかばかしさを容易に感じさせることができるのである。

国際競技会かそれに等しい競技会で表彰されれば素晴らしいことである。

この年代はチーム対抗を喜び、リレー・レースやチェイス・スタートは適したものである。



糸吉言論

われわれのお薦するガイドラインは、多くの異なった国内方式をカバーするように一般的な物言いをしなければならなかった。しかしわれわれが提議する‘精神’が‘法律条文’より更に重要であると感じる。われわれは、教師やコーチやユース・リーダーたちはもちろん、プランナー、コントローラーそして運営者たちが、このアイディアの‘精神’を受け入れていただけるよう望むのである。そしてまた、想像力に富んだ分かりやすい方法でのジュニアのコース・プランニングをして見るなどの初歩的研修を行なっていただけるよう期待する。ひとつでも子どもたちの心を不安にさせるような拙いコース・プランで彼らをオリエンテーリングから追いやってしまったという例はあまりにも多い。

多数の年代別クラスを引き受けるオリエンテーリングのようなスポーツで、中年の硬い考えで若者の要求を無視し、子どもたちを大人のやり方のなかで押しつぶすということは、あまりにリスクがありすぎる。子どもたちに期待過剰の親たちでさえ、彼らに知らず知らずのうちに不当なプレッシャーをかけ、行く末永い彼らのスポーツに対する興味にダメージを与えているかも知れない。

われわれがこのレポートの最初に述べたように、たとえ大人になった時にこのスポーツを続けていなくても、オリエンテーリングは子どもたちに豊富な体験を与えることができる。このスポーツ自身も、オリエンテーリングやその本質、そして社会的価値あるものとしての認識がひろまることで、多くの得るものがある。クラブや経験豊富なオリエンティアたちが地図やこのスポーツへの関心を深めるためのアイディアでもって学校に力を貸すことは重要なことである。そしてもし、彼らがオリエンテーリング・クラブへの入会や大会への参加を子どもたちに奨励するならば、エントリーや輸送の手助けと同様、社会的な経験や、大会運営の手伝いや、ジュニア問題における委



本年6月に実施した橿原市中学校体育大会「OLの部」より。
奈良県 城山 勉氏提供

員会決定に影響を与えるなどを通じて、子どもたちにクラブ活動に関わる機会を与えることは大変に重要なことである。

われわれのこどものオリエンテーリングに対する姿勢と方針は、今日、未来あるわれわれのスポーツのかたちを明確に浮かびあがらせるはずである。

[BIBLIOGRAPHY=参考文献：(省略)]

[IOF 発行“ORIENTEERING FOR CHILDREN = Guidelines” T. ソル、C. マッケール 及び P. パワー共著、ジョージア 教育大学出版、田口 肇 訳] —完—



第7回 誌上フォト・オリエンテーリング

お待ちかね、今年度フォト・オリエンテーリングです。お楽しみください。

9月26日の土曜日、滞在していた那須を10時に出発、途中、昼食を30分ほどで済ませて、1時過ぎに「奥松島探訪村フェスティバル 大会会場」に到着。仙台OLCのみなさんと簡単な挨拶を済ませた後、パンチ台を1本お借りして撮影に出発。昨年6月の札幌の暑さと違って、爽やかな初秋の「奥松島」をのんびりと歩かせていただきました。撮影に要した時間は約3時間ぐらいでしょうか。2本程ほんの10~20mほどの出入りポストがありますが、初心者のグループにこのまま使えそうなコースです。距離は各コース記号の中心部分を直線で結んで3.82km弱（何と昨年と全く同じ!?!）。コースの「形」もまあまあです。ちなみに今回は、歩いたルート=上記の直線コースではない=の登距離を等高線の数で数えてみたら12本ありました。すなわち約120mアップ（ダウン）したことになります。これだけのヒントと、いつものように

「位置説明」と「カメラを向けた角度」を参考にして、ポスト位置を当ててください。多数のご応募をお待ちしております。

全問正解の方には記念品を贈呈します。解答は、本号に折り込んだ地図をコピーし、△—○—○のコース記号とポスト順を「赤色」ボールペンで記入してお送りください。

【送り先】

〒233

横浜市港南区日野南7-9-5

0-JAPAN「フォトO」係 宛て

【締切り】

平成4年12月10日

※なお、ご応募のついでに、例によってご意見や日頃のお考えなど、フォトO以外についても結構ですから、お書き添えいただければ幸いです。

【撮影・出題 田口 肇】

スタート：
小道の分岐
280°



ポスト1： 池の西のふち 92°
(後方のがけは地図記号に無し)

ポスト2： 道の分岐 114°



ポスト3：
道の分岐
194°



ポスト4： 小径の分岐 114°



ポスト5： 小道の北の曲り（鈍角）315°



ポスト6： 建物（お堂）,西側 122°





ポスト7： フェンス, 東の角 208°



ポスト8： 道と小道の分岐 216°

ポスト9： 小道と植生界の交点 114°



ポスト10： 石仏 4°



ゴール： 校庭, 南の部分 131°

ショートO大会 by OLP

- 1992年9月13日
- 兵庫県多紀郡丹南町
「丹波大山」

～「ショート」というレース～

ランナーにとっては、まず予選の位置づけをしっかりと意識することが必要。コースは「スタミナ」より「スピード」が要求されます。なおかつ大きなミスが許されないの、高い集中力が必要です。予選が終わると、決勝に向けてのピーキングが重要です。予選と決勝の間の時間（以下インターバルと呼びます）は、あらゆる面で決勝にむけての準備の時間です。回りのダレたムードに身を任せず、気持ちをたかめていくことが必要です。あとは決勝での激走あるのみ。

運営側にとっては、まず稲垣が後ほど書くようなコースコンセプトが要求されます。当日の運営は、インターバルの間の作業をいかにスムーズにこなすかにかかっています。2日間大会を1日でやるようなものなので、2日間大会なら1日目の晩にゆっくりやれることを、昼休みのわずかな時間でやらなければいけないわけです。事前に綿密なシミュレーションが必要です。

今回そういう必要最低限の運営はうまくいきましたので、今後は、イベント性を高めるという点にも努力していきたいと思えます。普通の大会であまり考えられない「観戦していただく」のも重要な要素と考えられます。その点ではBFはAPOCのようにAFより先にマススタートしてもらって、ゴール後は観客に回ってもらう方が良かったでしょうし、もっともっと観客を意識した放送とかビジュアル区間等取り入れていくべきでしょう。

最後になりましたが、この大会にご参加いただきありがとうございました。また手薄なサービス面へのご協力ありがとうございました。今後ともOLPの大会をよろしくお願いたします。

実行委員長 出田 裕子

～コースプランナーより～

挨拶に先立ち、おわびを申し上げなければなりません。何人かの参加者の方から、「HE-Qのコース図において、3番ポストを示す円が等高線に重なり、地形を判読するのに支障があった。」とのご指摘をいただきました。全くご指摘の通りであり、私共の配慮が不十分であったことおわび申し上げます。今後、このようなことのないよう留意いたします。

さて、コースプランに関してですが、

<競技面での条件>

- ・アップを極力押さえ、スピーディに、気持ち良く走れるコースを。
- ・予選と決勝でルートが重ならないこと。

<運営面からの制約>

- 予選の競技終了から午後の決勝開始まで、運営者・競技者共に時間的余裕が持てるよう、（特に、決勝のスタート順等を早めに確定できるよう、）
- ・予選のゴール、午後のスタートはともに会場に近いこと
- ・予選は比較的易しいコースに。

ということ、念頭においてコースを組みました。DAとBクラスのコース設定（難易度の加減）、および、決勝8コース分をどう展開するかという点に苦心しましたが、全体的には楽しくコースを組むことができました。走った感想は如何ですか。

ショートOには、運営上の制約がいくつかありますが、テラインの「おいしい」部分だけを使って、楽しく走れるコースを組める可能性も持っている、ということを実際にコースを組んでみて感じました。（一度、お手持ちの地図でコースプランにチャレンジしてみれば、お分かりいただけるかと思います。）一般のOL大会を開くには不十分だけれども、ショートOなら開催できそうなテラインが他にもあるのではないのでしょうか。

最後になりましたが、皆様のご協力、事故もなく大会を終えることができましたことを感謝いたします。ありがとうございました。

コースプランナー 稲垣 智彦
[以上 成績表より転載]

—初めての土曜日休校日—

オリエンテーリング教室 結果報告

- 1992年9月12日
- 広島県・福山城跡公園一帯

日 時：9月12日（第2土曜日）10時～14時
天 候：穏やかな晴天
参加者：188名（61グループ）
対 象：初めての土曜日休校日、児童生徒の余暇活動の一助。
構 成：小学生同伴の家族及び小学生のみのグループ、ボーイスカウト。
参加費：1グループ 300円
運営者：福山オリエンテーリングクラブ員 8名
内 容：①9時30分 受付 ②10時 オリエンテーション
③10時10分 オリエンテーリング説明（一般説明）

・地図・磁石・歩測) ④実習— やってみよう! 1. 歩測・コンパスワーク・地図読み 2. ミニOL 3. バラエティOL (メモリー・ライン・ゾーン・コンパスワーク) ⑤12時 昼休憩
⑥12時30分 クラブ紹介・オリエンテーリング大会案内 ⑦12時40分 ポイントOL (1.8km/7ポスト) [記録 トップ:19分50秒 ラスト:1時間02分...売店で休憩] ⑧13時20分 フリーポイントOL (20ポスト) — 希望者のみ 30チーム ⑨14時 解散

<アンケート>

回答者数 30名 (1チーム1枚) 回収率 49.2%

☆いままでにOL参加の経験はありますか

(初めて 78.6% 経験あり 21.4%)

☆OLについて理解できましたか

(わかった 14.2% まあまあ 78.6% あまり 7.1% わからない 0%)

☆今日のプログラムは?

(きつい 14.3% 易しい 7.1% おもしろい 71.4%)

☆おもしろかったOL形式

(ミニ 0% バラエティ 14.3% ポイント 71.4% フリー 21.4%)

☆今後、土曜日にこのような企画をしたら参加しますか

(はい 96.7% いいえ 3% =1人)

☆オリエンテーリング大会に参加したいですか?

(はい 73.2% いいえ 13.3%)

<感想>

良かった点

○ポストを探すことに童心にかえられて夢中になりました。

○親子で頑張れて良かったです。

○とても親切にしてくださった。

○初めてだったけど、大人の方が興味をもちました。

○子供は始めちょっと難しかったけど、実際に始めるととても楽しんでいました。

○親子のふれあいがとても楽しかったです。

○思ったより子供も喜んで元気に一生懸命ポストを探しているので良かったです。 …… など。

気になった点

×ポイントが狭かったのでパンチの取合いがあり困った。

×説明が理解できにくかった。でも実際にやると少しずつ分かった。

×子供が説明の時ちょっと退屈した様です、すこし難しかったかも。 …… など。

福山オリエンテーリングクラブ 堀江 康博



第47回大田市O大会

●1992年9月20日

●島根県・三瓶山麓・西の原

《日寺》 大田市では、年間6回の普及大会開催を、私の公約として努めて来ました。6回の内、大田市OCの主管は(さんべ祭Oを含めて)3大会。他に、大田町・久利町・波根町に各々1大会が根づき、合計で成功している形です。

前回の大田市Oは、3か月前に(市内久手町)で開催。今回は、初秋の第3日曜日に開催。幸い好天に恵まれました。ただし、地元の池田はあいにく稲刈り作業の農繁期。人口集積度・随一の大田町は、ちょうど小学校大運動会と重なり、親子ともにその方に集中となって残念……

《戸斤》 国立公園内“三瓶山麓”のテライン。うち、おいしい処を、右回り次の回は逆回りを使う慣例を破って、今回はマップ北方の池田寄りを舞台として選定。この日は、出雲市社会福祉協議会の510人規模のバスツアーもこの山麓に集中。為に、一帯は普段の休日を越える賑い!

《人》 隣県広島島の常連、木屋さんがマイカー2時間一番乗り。松江市・出雲市・そして温泉津町から各々複数の新顔の参加があり結構盛り上がった。

スタッフ=12人、競技者=23人。成績のトップは..

男子	第1位	第2位
MB	1'24'30" 木屋 恵文	1'29'30" 黒崎 行雄
	(福山OC)	(松江OC)
GF	1'00'35" 清水宣子組	1'24'20" 堀内 満組
	(大田市OC)	(出雲市)

岸和田・神於山O大会

●1992年9月23日

●大阪府・岸和田市

《日寺》 地元・関西の学生オリエンティアは何か支障があったようで、祝日なのに1人も姿が見えなかった。(私は、市体協の今月号編集の仕上げがあったが、月々2回以上の県外遠征という原則優先でこの大会に参加)。

この日、朝のうち小雨があったが、スタート前には止み大慶!

《戸斤》 ここは、PCが在ったようだ。かつてのPCコントロールの残骸を目にする事もあった。今大会は、「PC改定再オープン」記念大会とされていたから、新コントロールの埋設も近いと思う。

会場(泉州高校通学バス大発着場)と並んだソフトボール・グラウンドでは丁度、校内外の女子高校生ソフトチームの大会が展開。私たちオリエン参加者数に匹敵する保護

者が詰めかけ、ソフト熱戦の方も盛会!

《人》この日、オリエン参加の青少年代表格、地元郷荘中学校のOC一行の姿が頼もしい感じ。遠来の社会人では、今月最初の土日・吉備路Oに参加された東京城南OCの磯谷さん&中京圏OCルーバーの中田夫妻が、この日も揃って参加されていた。

前回の大田市Oは、3か月前に(市内久手町)で開催。

スタッフ=12人、競技者=23人。成績のトップは・

クラス	第1位	第2位
DA	1'32'09" 堀口多賀子	1'43'10" 夏目喜代子
	(OC吉備路)	(大阪OC)
DN	1'31'34" 堀口千鶴	1'54'21" 住田裕子
	(OC吉備路)	(豊中OC)
HA	59'05" 辻村修	1'07'16" 池田辰雄
	(コンターズ)	(大阪OC)
HB	1'06'58" 香取伸一	1'12'26" 香取謙
	(大阪OC)	(大阪OC)

島根OC・財間 定義

佐賀県民体育大会

・競技二部

佐賀県民OL大会 兼 全国ふれあいOL大会

●1992年9月27日

●佐賀県・多久市

本大会は佐賀県の県民体育大会の行事の一環として企画されているようで、長崎自動車道を降りると各所に県大会会場の案内看板があり、各々の会場名が記されており、分かりやすく会場へ着けた。会場となった多久市は、佐賀県の「ヘソ」。長崎自動車道「多久」ICよりすぐの中部小学校。鍋島藩が儒教の教えを広めた学校の跡で孔子を祀る多久聖廟がすぐ近くにあり、国の重文に指定されており、次々と観光バスが会場の側を通り、小学生らしき乗客の声が聞かれた。文教の里と聞く。テラインは、会場の南側の小高い丘を中心のコース大半がミカン山と雑木林、西日本特有の植生・イバラはあまり無かったが、この時期特有のオミヤゲに悩まされ、ゴール後一生懸命レガーズから引き外すのに一苦労であった。個人の参加は約50名くらい。九州一円を中心に山口・広島・岡山まで。マップはこの大会のために作成の1万分の1、B4変形等高線間隔10m、4色刷りのニューマップであるのに、通行可能性がなく、また調査が早いと植生に甘さを感じた。今一つ突っ込んでもらえれば……と残念に思えた。ゴール後の話題に、コースの取り方で勝負が決まっており、運の良し悪しで記録が変わっていたようだ。

オリエンテーリング の普及ってなに?

●広島大学3年 尾川 正洋

我が広島大学OLCは、さる5/10(日)に「春季広島大学オリエンテーリング大会」を開催しました。目的はOLの普及のためです。しかし、結局グループクラスは半分が山口大学の一年生で、総数(グループクラスの)でも30名というものでした。何が悪かったのかと自己分析をしてみると、思い当たる理由があるのないうところではないのです。あり過ぎるのです。

まず、学内での宣伝。広島大学(以下広大)では、一週間ほど「森戸道路」というキャンパス内の大きな道路で「店だし」が許されるのですが、つまり宣伝と受付が許されるのですが、回りは新入生勧誘で他クラブが当然たくさんおり、まあなんと目立たなかったこと。うちの新入部員でさえ計7名というほど、目立たない宣伝であった。何が悪いのだろう。みんな配りをしたのはしたのですが。

次に校外での宣伝。これは大失敗。新入生勧誘に追われていたとは言え、ピラを配らずじまい、ほとんど無いに等しかったのです。

主にこの2つが失敗の原因であったと思われるのですが、他にも何かあるでしょうか。比治山公園というとても好都合な所で行なったので、こういう思いがとても強いのです。「みなさんはオリエンテーリングの普及をどのように考えているのですか。また、実際どのように行なっていますか。」この質問をみなさんに問いかけてみたいと思います。ぜひ、このO-JAPAN誌上で討論しましょう。

私はこの他に、(つまりピラ配りの他に)マス・メディアの利用といったことも考えていますがどうでしょうか。自分はこういう風にして普及を行なっているとか、こうすると良いという意見があったら、ぜひ教えてください。幾分読者の方には失礼な文章となっているかも知れませんが、その点はどうぞお許しください。

□

佐賀県ではこのように、毎年コンスタントに県レベルの大会が開催され、地図も作られているとか。「日本のOLの西限ではないか」と参加者より賛美の声が聞かれる程で、今後とも続けてもらいたいものである。10月には九州・広島と、今年は西日本でも順調に大会が続いてうれしい限りである。

OLC吉備路 福田 良雄

パーマナントコース りぽ〜と

□1992年5月27日(水)

長野県 No.18 ~木 92-10~

「霧ヶ峰高原」

[距離] 10km

[ポスト数] 10本 O-MAP

JR中央東線「上諏訪」駅下車。駅前より「強清水(こみず)」霧ヶ峰を通るバスに乗り、40分で「強清水」下車。バスが急坂を登りきって、開けた高原に出た瞬間、右側に木造の車庫と広い駐車場が見える。そこが「強清水」のバス停。バスは12月1日~4月15日の間は、雪のため運休となる。夏のシーズン以外のバスの時刻は、

上諏訪発 10:55 12:35

強清水発 15:27 15:55 16:10
17:02 18:17

夏のシーズン(7/18~8/23)は、

上諏訪発 9:35 10:55 11:55

「強清水」バス停近くの「作太荘」にマップとマスターがある。マップは1/20000のO-MAPで、精度は95%。

コースは山40%、林の道40%、草原20%で、標高差は150m。ポストは標準で④だけ少し錆びていた。

①の先から右折して防火帯(切り開き)に入るが、夏は灌木や雑草が茂って通り難い。その時は、コンパスワークを活用して、崖に沿って進むようにすると良い。③→④は、道へ出ずに用水路に沿って行くと自然に④に着く。

このコースの最大の難関は⑤であろう。道より20mほど左へ登った所に立っているが、道からはほとんど見えない。⑤は唐松の植林地に来たら注意。特に歩測をしっかりと。⑨はV字状の道の角から50mほど内側。

私の推薦コースの一つである。

(作太荘 ☎0266-52-1988

諏訪バス ☎0266-52-2180)

□1992年9月6日(日)

静岡県 No.1 ~木 92-11~

「草月霧ヶ高原」

[距離] 8km

[ポスト数] 11本 O-MAP

新幹線「新富士」駅で下車して「富士吉田」方面行きのバスに乗り、「朝霧グリーンパーク」下車。または、富士急行「富士吉田」で下車して「新富士」方面行きのバスに乗り「朝霧グリーンパーク」下車。バスの時刻は、

【行き】(始点)(平日)(土・日・祝)

新富士 10:20 10:20 12:20

富士吉田 12:30 9:30 12:30

【帰り】(行先)(平日)(土・日・祝)

新富士 約16:50 14:50 16:50

富士吉田 16:10 14:00 16:10

JR身延線の「富士宮」駅からもバスがあるが、平日の8:30の1本だけ。とにかくバスの本数が少ないので、事前に「富士急行」(下記)に電話をして始発駅・行先・時刻を確かめておくこと。バスはどちらからも約60分かかる。

8kmのコースを3時間半で回ればバスが利用できる。

「朝霧グリーンパーク」で下車したら、国道を南へ約500m行くと「朝霧野外活動センター」の大きな標識がある。そこを左折して約1.3kmで「朝霧野活動センター」に着く。

MAPは1/20000で、調査日は平成4年2月。大会MAP並みに通行可能度の色分けがしてあるので活用するとよい。

コースは牧草地60%、林10%、草原20%、牧場10%で、標高差は50m。

ポストは標準で11本とも朱色の新品。難解ポストは③と⑧であろう。

1ヶ月前にも歩いたが、その時と全てが変わっていた。土の道はほとんど舗装され、特に①→④は車の排気ガスで少々がっかり。

個人で新MAPを使用したのは私が最初らしい。

(朝霧野外活動センター

☎0544-52-0321

富士急行=バ 関係 ☎0555-22-7100)

リポーター:

〒185 東京都国分寺市泉町 3-5-6-104

木佐木 輝雄

□1992年6月21日(日)

静岡県 No.9 ~大高 92-5~

「御殿場東山湖」

[距離] 8km

[ポスト数] 10本

御殿場線「御殿場」駅下車。バスもあるが不便なのでタクシー(1,010円)で「市立青少年会館」へ行くとマップがある。外のマスターも明瞭だが、2枚掲示してあるマップのポスト位置が若干食い違っていた。このコースはO-JAPAN 第10号(1984.7.10)で新地図にするため休止となっていたが、その後再開されている。マップは確かに新しくはなっていたが、O-MAPではなく、いまだに国土地理院のマップを複製した1/25000のものだった。ただ、複製したマップはごく最近のもののように、コースを回る上では全く問題はない。マップの右下にも1992.5.01と数字が打たれている。

ポストは全て新しくなり、プラスチック製で強度にはやや問題があるが、新品で気持ちが良い。①が「東山湖」。②→③は国道沿い。③→⑤が林道で、③の少し先に車両通行止めの門があるが、横を抜けて入ることができる。この門は②の直前にもある。⑤→⑦はこのコース唯一の山道だが、杉林の中の道で藪は全く無く、真夏でも楽に歩いて行ける。⑦の南側は「富士カントリー倶楽部」で、北側には「小田急ファミリーランド」があり、歩いているとジェットコースターからの絶叫が聞こえてくる。残りは平坦な道のり。良く整備されたコースで、安心して回ることができた。帰りは国道まで歩き、「二の岡」というバス停から箱根

より下ってくる箱根登山バスに乗った。
このバスは1時間に1本程度走っている。

スタート地点が他に2か所あるが、歩くコースは同じなので、「青少年会館」をスタートするのが良いだろう。

(市立青少年会館 ☎0550-82-0444
御殿場市教委体育課☎0550-82-4135)

□1992年6月27日(土)
長野県 No.7 ~大高 92-6~
「佐久平」

[距離] 12km
[ポスト数] 10本 O-MAP

小海線「岩田村」駅下車。徒歩10分の「浅間会館」に掲示板があり、中のマスターは判読可能。マップはスタート地点では入手できず、佐久市教委体育課の方に3年前に頂いたものがあってそれを使用した。

富田さんのレポートでコースが荒れていることは承知していたが、予想以上に酷かった。②は分岐脇にある石碑の横にあるが、視色が進み三面ほとんど真っ白。③は「八幡社」の裏に捨てられるようにして倒れていた。④は道から入った山の急斜面にあり、記号を確認しにくいのが大変。⑤は道路拡張の際撤去されたのか不明。⑥へは途中で岩壁のある地図上の古い山道もあるが、それと並行してある舗装道路を辿り、西に入ることもできる。ただ、ポストは藪の中にあり発見困難。⑦は下る道が分からなかったので⑧から戻った。⑦⑧共分岐点の近くにある筈だが、全く見当たらず。⑨も神社の裏の林の中にある筈だが不明。⑩付近は造成中でポストを探す余地なし。⑪付近は自動車道上越線の工事中。結局5つのポストしか発見できず、まともに立っていたのは①④⑥だけであった。現コースではポストが崩っていたところで④~⑤、⑥~⑦の小径は荒れ果て、⑤付近は砂利採取のダンプが頻繁に通る、危険で勧められない。教育委員会の方の話では、近いうちにコースの廃止を予定しているとのことであった。

(佐久市教委体育課 ☎0267-62-2020)

□1992年7月20日(月)
群馬県 No.132 ~大高 92-7~
「奥日光丸沼高原
レイクサイド」

[距離] 9km
[ポスト数] 9本 O-MAP

日光または沼田市街より車で約1時間、丸沼高原スキー場内「シャトレ丸沼」がスタート地点。バスは本数が少なく不便。フロントにNo.131「瑩塚山」と共通のマップがあり、外のマスターも明瞭。ただ、「瑩塚山」は現在閉鎖中とのこととマスターは抜いてあった。標高1423mの「丸沼」と「大尻沼」の周囲を巡るコースだが、意外とアップダウンがある。ルートは容易。①まではスキーのグレンデ内の道を進む。その後は高原ならではの原生林で、途中は苔むした岩石地もあり実に神秘的。④への小道の入口にはガードレールがあるので行き過ぎないこと。⑤の先の「丸沼温泉」からは大変眺めが良く、湖畔で昼食をとるのもよいだろう。⑥へは地図上の遊歩道を歩いてしまうと樹間からしか湖が見えないので暫く湖畔を進み、直前で藪漕ぎをして坂を登って到達した。⑧までも原生林のなかの道で静かな道のり。⑨は「奥日光ペンションふぁみりい」の前にあるのだが、ポストは壊れて草に埋まっており、見つけるのに非常に苦労した。問題点はここだけで、涼気漂う夏の高原を満喫した。推薦ベストコースである。

(シャトレ丸沼 ☎0278-58-2211)

リポーター:

〒344 埼玉県春日部市武里団地5-23-503
大高 竜亮



□1992年8月28日(金)
山梨県 No.77 ~富 92-6~
「四尾連湖」(しびれこ)
[距離] 6km
[ポスト数] 9本

JR身延線「市川本町」駅または「市川大門」駅下車。バスはないので駅前タクシーを呼ぶ。20分 2,680円。湖畔に「龍雲荘」と「水明荘」がある。「龍雲荘」で古い2万5千分の1のほかにもポストとその記号入りのグリーンの1万分の1を入手した。ポスト番号はない。X、FおよびAが問題。標高マーク937、936を通る太い道に面しているのはFだけで、これも少し奥に入っているため見逃した。XとAは一つ南の小径からでないとは分らない。標高850mにある小さい静かな湖を満喫した。

(市川大門町教委 ☎0552-72-1101)

□1992年8月30日(日)
山梨県 No.80 ~富 92-7~
「八ヶ岳泉郷」
[距離] 9km
[ポスト数] 7本 O-MAP

JR小海線「甲斐小泉」駅下車。マップは指導標に従って徒歩20分の「泉郷」フロントにあるが、ポストはすべて記入済み。記入なしのマップはないといわれた。①はフロントのある建物の側にある。⑤と⑥の間の一部は「信玄棒道」になっている。⑥から⑦へは終始「八ヶ岳」を仰ぎつつ進む。ポスト記入済みのマップを持っている場合は、「甲斐小泉」駅をスタートとする方が楽である。
(泉郷 ☎0551-38-2336)

リポーター:

〒145 東京都大田区南雪谷 2-8-8

富田 徹

☎03-3729-1222

※上記の2コースのポスト位置記入済みマップ提供可能。=富田

□

情報あれこれ

早大OC
学年対抗リレー

●1992年9月20日

●第4回慶大リレー大会で

慶大義塾大学オリエンテリング同好会主催の第4回慶大リレー大会が去る9月20日、多摩湖畔『村山砦』にて開催され、真夏を思わせる日差しのもと、116チーム・約400名のオリエンティアが覇を競った。

早大OCと早大OC寿会では、この大会を利用して、昨年に続き2回目の学年対抗リレーを実施。昭和54年入学の5期生から平成4年入学の18期生まで、干支ひと回りも年の離れたOBと現役、12学年13チームが寿杯を賭けて激突した。

結果は、11期1走の羽鳥が大会総合トップでゴール。2走川又も好走してトップをキープ。3走前野もタイムをまとめ、見事、総合2位の成績で寿杯を獲得した。3人はいずれも昭和63年度奈良インカレの団体戦優勝メンバー。前回4位の雪辱を果たした。

慶大OLCが大会を開催するのは8年ぶりのこと。関係者は「次はいつになるかわからない」などと自嘲気味に語るが、毎年200人規模の東大対早大の対抗戦を運営しており、ノウハウは十分持っているはず。

今年、創立20周年を迎えた慶大OLC。ますますのご発展をお祈りするとともに、是非これを機に今回のような素晴らしい大会の継続的な開催を期待したい。

【1】11期	羽鳥	①-川又	①-前野	2.11.46
【2】15期選抜	原	②-照井	③-塚本	2.13.02
【3】16期	南条	③-武田	②-横溝	2.20.13
【4】10期	宇治橋	⑥-佐藤博	⑤-篠崎	2.20.43
【5】8期	池ヶ谷	④-白田	④-庄田	2.28.24
【6】15期乙	小林博	⑤-渡辺初	⑧-愛甲	2.30.28
【7】13期	田中寿	⑫-佐藤隆	⑨-白石	2.32.58
【8】9期	小野	⑦-岩出	⑥-桐田	2.34.24
【9】7期	細川	⑨-宮川	⑦-江田	2.43.39
【10】18期	代田	⑪-山内	⑪-寺井	2.55.48
【11】5期	豊島	⑬-中野	⑩-山名	2.55.53
【12】12期	田中太	⑧-長谷川	⑬-天野	3.11.20
【13】17期	高野	⑩-竹中	⑫-村山	3.11.21

神奈川県 池ヶ谷 悦朗 (早大OC寿会)

セバレート式チェックカード

O-JAPAN作成のセバレート式チェックカードは、多数増刷ができています。1枚15円で、最少単位は100枚(1500円+送料)です。送金方法などをご説明いたしますので、電話でお問い合わせ、お申し込みください。

O-JAPAN バックナンバーあります

No.55以降、No.62・65・93を除き残部があります。電話でお申し込みください。

第2回
中四九ブロック連絡会
報告の補足

和田 美千代 (旧姓・須山)

9月号9ページに掲載された中四九ランキング実施のための成績送付先の住所が欠落していましたので補足いたします。

〒716 岡山県高梁市原田南町1122

メソニAYA 201

和田 美千代

なお、地区内のほとんどの社会人オリエンティアの方々には、事前に何の相談もなく、強引に大会指定をいたしました。皆様の後輩である学生たちが、合宿中に原案を検討、一部修正の上で承認したことなので、部分的不都合には目をつぶってご協力ください。

また、今年度に関しては、明らかに地区内のクラブと認められる名称のクラブは参加クラブとして扱いますが、集計結果の配布(または郵送)は300円を納入したクラブのみとします。

編集音信より

◆10月10日が近づいても、トップに持っていきそうなテーマがなく焦っていたところに、ある方から「神奈川新聞」の切り抜きをいただきました。訳していた「こどものためのオリエンテリング」や、堀江さんの「初めての土曜学校休日」に開いたオリエンテリング教室など、青少年への普及・教育に関連し、タイミングも合うので編集部なりの提言をさせていただきます。昨年の「運営機構を充実させよう」から、もう少し具体的に、つまり実現可能であるとの裏付けを含めて、次号に書かせていただきます。先月号のこの欄に書いた、地域大会のことなども関連させたいと思いますが、みなさまのご意見・ご提言も多数お寄せいただければ幸いです。

<流人>

O-JAPAN 92/10
No.111 1992.10.10発行

発行/O-JAPAN

発行人/田口 昭子

〒233 横浜市港南区日野南7-9-5

TEL.045-891-7004

(Annex) TEL.0287-77-1977

FAX.045-891-2500

郵便振替口座/横浜7-46870

(加入者名) O-JAPAN 編集部

購読料 年間4月~3月 ¥3,000

(高校生以下) ¥1,800

'92.10月~'94.3月 ¥4,500

(高校生以下) ¥2,700

1部あたり頒布価格 ¥250

編集責任者/田口 肇

Chief Editor: Hajime Taguchi

Editorial Address:

7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku

Yokohama, 233 Japan